

# 令和5年度 伊那市立手良小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
校訓「思いやり」 やさしい子【情操】 かしこい子【創造】 やりぬく子【意志】 元気な子【活力】	めざす手良っこの姿 『思い合う(笑顔)』 『地域とつながる(みんな好き)』 『自ら考える(学び続ける)』
	今年度の重点目標
	(1) 自分と他者を大切にし、お互いに思い合うことにより、自己有用感を高め、協同する人間関係づくりを進める。
	(2) 手良の良さを体感する活動を展開することにより、家庭や地域とのつながりを深める。
	(3) 課題解決する力を身につけ、未知の状況にも対応できる資質・能力を育てる。

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 安心して学べる、一人に確かに届く学級づくりを進めてきた。研修として学級経営案を見合い、連学年会などで情報交換をすることにより、幅広い視野をもって児童の人間関係づくりに力を入れることができた。子どもたちの縦横の関係性のよさ、仙丈グループ(縦割り班)活動での学びは、多くの保護者の評価を受けることができた。	A b	○道徳・人権同和教育の充実をさらに図っていく。担任を入れ替えて、道徳の授業を行い、多様な学びの機会をもつこと、複数職員の手で子どもたちを育てていくことを願ったが、十分な検証がなされなかった。多様性への理解、思いやりのある心の育成に今後も努めていく。
(2) 保育園、高齢者施設や高齢者クラブ、公民館、手良地区活性化促進会議等の各団体と連携をとり、地域とのつながりを活かした学習や地域、保護者の支援による教育活動を実施することができた。トランペット鼓隊や手良太鼓は、児童数の減少の中で、その取り組み方について検討していく。また保育園との交流について見直しを行う。	B b	○百人一首や生涯スポーツなど、地域の方々と共に楽しめたり、学び合える活動を精選し、より地域との結びつきを深めるようにする。 ○保小の連携について再考したい。運動会、避難訓練など大きな行事の交流が主な関わりであったが、畑作りや収穫、よみきかせの会など、日常的な交流を大切に、関わりを通して、入学後の小学校生活へスムーズに移行できるようにしたい。
(3) 「できた」「わかった」「楽しい」授業の実践をめざし、自分の問いを大切にしたい主体的・探究的な学びへの移行、一斉教授型の授業からの脱却を進めることができた。個人の課題追求も、グループでの協同的な追求も、ICT機器を活用し個別最適な学びの実現に向けて取り組みを、教師相互で学び合うことができた。	A b	○日々の授業の中でどのように課題解決する力を身に付けていくか、研究のテーマを年度当初から位置づけ、単元構想や、子どもたちの問いのたせ方など、さらに授業改善を進めていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○教育目標の充実	○学校教育目標実現のための取り組み ○仙丈グループ(縦割り班)活動の充実
		○教育課程の編成	○授業時数や時間割の配当、学校行事の設定
	学習指導	○より確かな学力の定着 ○個に応じた指導	○ICT機器を活用した個別最適な学習の実践 ○個に応じたドリル学習や家庭学習(主に自主学習)の実践
		○人権教育	○道徳、人権同和教育の充実 ○人権教育を全教育活動の中で進めることによる人権意識の向上及び確かな人権感覚の育成
生徒指導	○いじめ・不登校支援	○ていねいな事実確認と報告。現状把握と支援会議の開催。	
	○教育相談	○スクールカウンセラーや子どもと親の相談員、外部関係者などとの連携による、いじめや不登校の早期発見や対応	
学校運営	安全	○防災教育の充実と安全な環境づくり	○自らの身を守るために進んで行動できる児童
		○登下校時における安全確保・安全指導	○「子どもの安全見守り隊」をはじめとする地域一体となつての児童の安全確保 ○登下校時の歩行指導や交通安全教室の実施等による交通安全教育の推進
	地域との連携	○家庭・地域との連携	○授業、読み聞かせ等の取り組みの中で保護者や地域の教育力を生かす取り組み ○手良小(TERASHO)共育プラン作成・活用
○学校情報の発信		○〇学校ホームページによる情報発信、学校・学年だよりの作成と配付、通知票の充実	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○学校行事の諸活動において、学校目標や重点とのつながりを意識したねらいが設定され、その具現に向けて取り組みが行われた。 ○縦割り班の活動内容の充実と、教師の支援や助言などにより、めざす子どもの姿に迫ることができた。	A a	○手良地区全体で子どもを育てる気運が高まるよう、学校教育目標や重点目標を、学校だよりやHP、回覧を通して地域の方々にも周知する。 ○異学年の子ども同士の関わりにより、責任感や使命感を持てるようになるなど、協同して社会性をはぐくむことができるようにしたい。
○学校行事の実施内容とそれに向けた活動のあり方についての見直しを進め、練習に費やす時間を精選することによって、児童にとって無理のない教育課程が編成できた。授業時数の把握を大切に、年間通してバランスのよい教育課程となるようにすることが課題。	A a	○授業時数を常に把握しながら、時間内で充実した学習となるようにすることに加え、教科横断的な学習、児童の問いを大切にしたい総合的な学習の時間の充実を図るために、断片的な時数あわせの活動とならないようにしていく。
○ICT機器の活用が進み、クラウドの効果的な活用により、授業内で、友の多様な考え方に触れる機会が増え、成果を上げることができた。AIドリルを使った個別最適な学びについて学年間で取り組みの差があるのが課題。	A b	○ICT機器の活用がさらに活発になるよう、全校研究、学年会などの場で、活用に関する情報交換や授業の振り返りを積極的に行う。また、伊那市のICT活用に関する研修を始め、各種研修への参加を職員に促し、先進的な取り組みに学べるようにしたい。
○道徳の授業に限らず、諸行事で相手の気持ちや行動への理解を深め、学校生活全般で児童のもつ人権感覚を揺さぶりながら考えることを大切にしてきた。 ○年2回のなかよし週間の実施により、相手の思いに寄り添うことの大切さに気づき、対人関係の深まりが進んだ。	B b	○一人一人が大切な存在であることを全体で確認する。縦割り班による活動を継続的に実施し、更に豊かな人間関係づくりに努めたい。また、相手に直接言葉で良さを伝え合ったり、励まし合ったりする場面を日常的に設けていく。
○子ども同士の好ましくない関係やトラブルなど学年でもていねいに対応し、情報を挙げることができた。小さなことでも見逃さないことが早期対応につながり、事態を大きくすることはなかった。	A a	○いじめに対する初期対応の大切さが認知されてきたので、今後も担任ひとりややむやにしたり、抱え込んだりすることのないよう、対象児童にチームで関わっていく姿勢を大切にしたい。
○研修で取り組んできたスクリーニング会議を通して、どの子にも光を当て、必要な児童は外部機関と連携しながら支援会議を行い、早期に対応することを心がけた。少しずつではあるが、改善の方向が見えてきている。	A a	○困り感を抱えている児童を早期発見し、早めに対応できるよう今後も研修を重ね、実践していきたい。時にはSSWを招いて現状と課題について懇談の場を設けるなど、工夫していきたい。
○地震や火事の際、校舎内のあらゆる場所で、想定される危険を予測できる力をつけるという目的で訓練を行った。防災学習実施学年では、家庭と相談したり、情報を得たりしながら、最善の危険回避について探究的に学ぶことができた。	A b	○防災に関する学習は学校の中だけでなく、家庭や地域も交えたものとなるようにしていかなければならない。保小の引き渡し訓練も従来の方法に固執することなく、地域一体となって取り組む防災となるような方向を見いだしていきたい。
○下校時刻のお知らせや学校便りを通して、PTAや子どもの安全見守り隊へ支援をお願いし、児童の登下校時の安全確保に努めてきた。 ○歩行、自転車乗車時の安全確認のやり方を習慣づけるというめあてのもとで、模擬コースを使って、繰り返し練習することができた。	A b	○上記防災に関することと同様に、従来の交通安全教室や見守り活動を基盤としながら、地域が一体となって交通安全に取り組めるようにしたい。まずは関係機関との連携を大切にしたい。
○手良の地域の歴史に詳しい方、野菜の生産者など、知識や技能をお持ちの方々のご支援を受け、充実した地域学習を行うことができた。一部の学年に限られている点が課題となっている。 ○手良小共育プランは11年目を迎え、年度始めにPTA総会にて、各家庭での取り組み方や振り返り方などを確認し、1年間取り組んできた。学年PTA懇談会で短期(または長期)の目標を立てて活動を継続させ、振り返りができた。	A b	○百人一首や、ニューススポーツなど公民館と連携しながら、クラブ活動や地域での行事に子どもたちが関われる場面づくりを大切にしたい。 ○子どもと一緒に育つ基盤づくりとして今年度も学級毎で、懇談会の話題にしながら活動を継続させたい。
○学校ホームページは1週間で1、2回の更新をめざし、学校の様子や子どもたちの思いが分かるように内容を工夫した。メールを併用して、毎月の子定やお願いなど、学校と家庭・地域を結ぶコミュニケーションツールとしてさらにそのあり方について検討を重ねていく。	B b	○学校だよりや学級だより等の内容の工夫、連絡帳の活用等により、家庭や地域とのつながりを一層深めていきたい。 ○ホームページの更新を積極的にこ行い、これまで以上に情報を発信したい。

<b>研 修</b>	○児童理解研修・授業研修	○不登校児童への理解と対応のあり方について職員研修の実施。 ○ 学習指導力や生徒指導力のための全教師の授業公開、児童の姿の共通理解	○児童理解を深めるための研修として「Q-U研修」を行い、児童の特性の理解の仕方について学んだ。 ○地域研修やICT機器使用法研修、人権司和学习についての研修を行い、教師力向上につながった。	<b>A a</b>	○Q-Uの結果を有効に生かし、配慮を要する児童の個別の教育支援計画の見直しを行いつつ、更に活用するようにしたい。 ○目の前の子どもについて語り合う、児童理解を深める研修を計画したい。職員が地域を知る地域理解研修も継続したい。 ○来年度も、職員間での積極的な授業公開を行いたい。
	○自己課題による職員研修	○授業力向上のための職員研修の推進	○校内研究は充実したが、校外の専門機関などで行われる授業・生徒指導などの研修への参加は停滞した。	<b>B b</b>	○互い実践から学び合い、常に向上していくための職員研修の場を大切にしていきたい。 ○教育会、総合教育センターでの研修のよさを伝えながら参加を勧め、職員のキャリアアップを支援する。